

# 平成25年度第9回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成26年1月29日（水）

午後4時～午後5時25分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

## 1. 開会

代理出席（増田委員代理：海匠農業事務所福田旭グループリーダー）報告

欠席（椎名委員、土屋委員、米良委員）報告

## 2. あいさつ

委員長：お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。重要な議事内容に差し掛かっています。本日も慎重審議をしたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

市長：あらためまして、皆様明けましておめでとうございます。また、お忙しい中第9回旭市道の駅建設準備委員会にお集まりいただきありがとうございます。昨年より検討していただいております、第3セクター設立計画について、関係団体に対し建設準備委員会の検討経過を報告し資本金についてご協力いただけるようお願いをしているところであります。また、駅長推薦については期日が今月末となっているので、3月末までに候補者の決定ができればと考えているところであります。建設候補地の取得については、1月6日に所有権移転登記が全て完了したとの報告を受けているところであります。今年はいよいよ建設工事に着手するとともに、第3セクター設立に向けた発起人会の運営や、生産者・出店者の選定など重要な部分の検討になりますので、皆様には貴重なご意見をお願い申し上げます。

## 3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

### （1）第3セクター設立計画（案）について

○平野部会長より報告

皆様ごくろうさまです。また作業部会の方につきましては、引き続きよろしくお願ひします。本日2時より開催しました第4回第3セクター設立作業部会の会議内容について報告します。第3セクター設立計画書の内容の検討がメインであり、基本方針に始まり出資金や出資構成、組織計画、市民理解を深める制度の付加等について内容の確認及び検討を行ないました。運営計画についてはまだ将来の話にはなりますが、

売上が最大になると思われる5年後を目処に、市民や市内企業からの出資を募り増資を行なうことによって、道の駅に対する一体感をより一層高めてはどうかと議論しました。また、今回検討内容も多岐に渡ったため、要点について事務局より補足報告をお願いします。

事務局：第3セクター設立計画書（案）の説明については、この後アドバイザーより説明をしていただくので、本日の作業部会内においての委員の皆様からいただいた意見を報告します。まずは出資の関係として、各組織においての現在状況の確認がありました。また、生産者とのすり合わせや募集関係の調整をなるべく早く行ない、シュミレーションをした上で、現在ユーズクラブとしている消費者団体等との調整を行うべきであるといった意見が出ました。また、自然食バイキングの営業時間後の利用や、イベント開催時の軽トラ市の可能性、屋外テナントスペース整備の必要性等についての議論を行いました。

## ○アドバイザーより第3セクター設立計画（案）について、内容報告

### 各委員からの意見

委員長：作業部会及びアドバイザーの報告について、何か意見や質問はありませんか。

委員：先日パン屋を営む方と話す機会があり、その際に焼き釜等の設備投資を全て出店者が行うのであれば、出店については非常に厳しいという意見があった。ただ、パンについてはその場で焼いて香りを出すというのが、販売において非常に効果があるので、設備投資を抑えるためには小さい焼き釜で、特定のパンのみ冷凍した生地をその場で焼くという方法もある。しかしあくまでも特定の種類のパンしか焼けないため、できればそういった制約のない厨房設備で営業すべきであるが、冒頭述べたとおり出店者が全て費用負担するのであれば、出店については踏みとどまってしまうとのことであった。

委員長：道の駅の建設地付近に大手スーパーが出店するような事態になった場合は、道の駅にとって非常に脅威になると思うが、その件についてアドバイザーの意見を伺いたい。

アドバイザー：旭市の道の駅はあれだけの好立地なので、その他の競合店が出てくることは想定した上でパターン別売上げ予測を行っているため、売上額等の試算については、大幅に見直す必要はないだろう。

市長：道の駅は単なるスーパーではないので、品質や品目に工夫をしたり、市の特産品を集めたりといった市の魅力を集約する努力をすることにより、ある程度競合店があったとしても人を集めることが出来るのではないだろうか。

委員：ある道の駅のレタスの食感が素晴らしく非常に美味しかったため、販売している方に何か特別な工夫等があるのかを伺ったが、朝取れの野菜を並べているだけでその他は特段変わった工夫はしていないとのこと。これはいかに新鮮さが魅力であるかということであり、生産者や出品者に対しそういった指導を徹底すれば、スーパー等には

負けないだろう。

委員長：野菜等の集荷については、J Aのノウハウを参考にする必要はあるだろう。また売上計画額が随分抑えて設定しているように感じるが。

アドバイザー：売上額を上げられる可能性は十分あるかもしれないが、旭市道の駅のマーケットサイズを考慮すると、現段階ではこれ以上高く設定することは望ましくない。

事務局：売上計画額の設定については、アドバイザーとも協議の上設定している。これは経営するにあたり、ある程度控えめに設定した売上想定でも健全な運営ができるのかというところにも主眼を置いて設定しているので、結果として予想以上に売上が出ることは非常によいことだと思う。また、スーパー等の競合店進出については、道の駅は地元が様々な仕組みを構築しながら、市全体で盛り上げていく施設なので、単にスーパー等と比較することは適切ではないのではないかと。

委員長：委員からも意見があったが、テナント設備の整備についても早めに決定しなければ出店者募集時にも大きな影響があるだろう。

市長：出資も重大ではあるが、集荷方法の詳細検討も急ぐべきである。また、J Aに野菜等の集荷依頼する場合においても、取り決めなければならない事項が多いと思うので、そういった状況も視野にいれて事務局には検討をしてもらいたい。とにかく多くの野菜等が集まらなければ話にならないので、最優先で行うのは生産者や出店者との調整だろう。

事務局：次の議題が開業までのタイムスケジュールなので、生産者組織づくりについても併せて説明したい。

#### ○事務局より、事業項目ごとに説明

アドバイザー：生産者や加工品の集荷関係やテナントの部分については、今年度末に基本的事項の計画策定がされるため、来年度早々に詳細を議論することになる。個人生産者への説明及び集荷量や時期をある程度まとめた後に、J Aに残りの部分を依頼するような流れになる。まずは野菜の集荷についての検討が最優先で行うべき事項であり、続いて加工品の集荷についての検討を行うべきである。その後、時期的には8月頃にテナントについての最終検討を始めるようなタイムスケジュールである。12月頃に農産物出荷者や加工品出荷者に対する説明会を開催し、開業までの期間に作付け等の準備を始めていただきたい考えである。以上により現時点でのタイムスケジュールは決して遅れているわけではないことを報告します。

委員：作業部会においても出資割合等は議論しているが、野菜や加工品の集荷についての詳細協議はこれからである。

市長：今後協議内容はもっと詳細で重要な事項になってくると思うが、事務局にはより一層の自覚を持って望んでいただきたい。

委員長：大規模農家が道の駅に出品していただけるようなシステムづくりについて、J Aの協力がいただけるよう調整を図らなければならない。今後はJ Aと生産者直接の

2通りの集荷システムについての検討が必要である。また、いかに野菜を集めることが出来るかという点が、道の駅において一番重要であるということを再認識しておかなければならない。

事務局：直売所では野菜の販売がメインであり、集荷におけるJAとの調整は必須なので今後協議検討をしなければならない。また、個人生産者からの直接出品も積極的に受け入れたい。生産者が直接持ち込み、自分で値段を付けて、どれだけ売ったのかといった事が楽しみに繋がると思う。こういった機会を与えることができるのが道の駅である。

市長：現在のタイムスケジュールをよく見直して必要があれば随時訂正していただきたい。

委員長：東京オリンピックの開催事務局は、開催まであと6年しかないという危機感を持って望んでいるようである。旭市の道の駅においても開業予定まであと1年9ヶ月あると考えるのではなく、あと1年9ヶ月しかないという危機感を持った姿勢で臨んでいかなければならない。

市長：生産者組織の総会時期は4.5月が多いので、そういった事も考えてタイムスケジュールを検討していただきたい。特に道の駅に対して出品したいという個人生産者はなるべく早く募集すべきである。

### (3) 設計業務の経過報告について

※事務局より説明

- ・太陽光発電における整備規模の比較について説明
- ・整備規模は50kw未満(49kw程度)での整備を検討
- ・一部自家消費することについて併せて説明

### 各委員からの意見

委員：公的施設として整備する場合にも電力の自家消費はできるのか。

事務局：可能である。

委員：50kwの整備した場合の1年間の売電収入の試算が若干少ないと感じたが。

事務局：現在想定される固定価格買取制度の単価と、年間発電量を50,000kwとして試算したものである。

設計事務所：あくまでも概算の計算ではあるが、パネル10kwの整備をした場合に、年間発電量はパネル容量のおよそ1,000倍で試算をしてきた。最近パネル性能が大幅に向上しているので、更に発電量は増えている状況である。

委員長：これは確定した数字ではなくあくまでも見込みである。ただ、使用する場合の電気料金は今後どんどん上昇するだろう。

事務局：災害時のことも鑑み、一部自家消費をして残りを売電することが望ましいと説明したが、この自家消費と売電の割合についてはいかがでしょうか。

委員：この割合には、何が正解ということはないだろう。

委員：一部自家消費にした場合に、災害時においてその割合は変更できるのか。

事務局：それはできない。現在は災害時に情報発信施設において必要最小限の電力使用のみを想定している。

委員：災害時の必要最小限ということであれば10kw程度あれば十分足りるのではないか。

委員長：災害時等の緊急対応は基本的には発電機で賄うもので、委員の発言のとおり10Kw程度を想定していれば十分ではないのか。

事務局：では10kw自家消費し残りの39KW程度を売電するというところでよろしいか。

各委員：意見なし。

委員：太陽光関係ではないが、自然食バイキングの客席数について、現在は席数を60席として計画しているが、バイキングは通常の飲食より滞在時間が長くなることが多く、60席では大型観光バス2台程度で満席になってしまうだろう。近隣の類似業態施設では客席を現在100席で運営しているが、それでも席数が足りない状況であるとのこと。同じ業態である旭市においても60席では心許ないような感じがするが。

事務局：現在屋内60席の他に、屋外テラス席を48席程度設ける予定である。ただ、屋根はあるがあくまで屋外なので、悪天候時や冬季の活用には不向きである。

## (2) 駅長の選定について

※事務局より説明

・駅長選定に関する報告

10、11月に市内から、12、1月に市外からの候補者も含めた推薦を受け、2、3月で決定するというタイムスケジュールで進めてきたところである。本日も推薦受付期間中なので、新規推薦者がいれば会議終了後でも構わないので報告いただけるようお願いしたい。現在推薦を受けている候補者の人数は前回委員会時と同数の11名だが、前回と違う点としては同じ候補者に対する推薦が増えている状況である。また、本人の意思確認等がされていない推薦もあり、個々の事情により迷惑がかかってはならないので、今回においても名前等の公表は差し控えさせていただきたい。現在選定方法の詳細について検討中である。今後事務局により本人の意思確認をした際に、人柄等を見させていただこうと考えている。なお、報告した11名については全員が候補者になるわけではなく、ある程度の絞込みをして面接等を行なうことになる。選考の結果該当者（旭市道の駅の駅長にふさわしい人材）がいない場合には、26年度から公募を開始する予定である。駅長選定の内容については今後の準備委員会において、順次進捗状況の報告をさせていただきます。

## 各委員からの意見

委員長：駅長の選定について、事務局より説明がありました。何か質問等がありますか。

各委員：特になし。

## (4) その他

・委員より、2月10日（月）に開催される「旭市地域振興交流会」について案内及び

講演会講師「松本譲」氏の紹介。

- ・事務局より、銚子市軽トラ門前市の視察内容の紹介